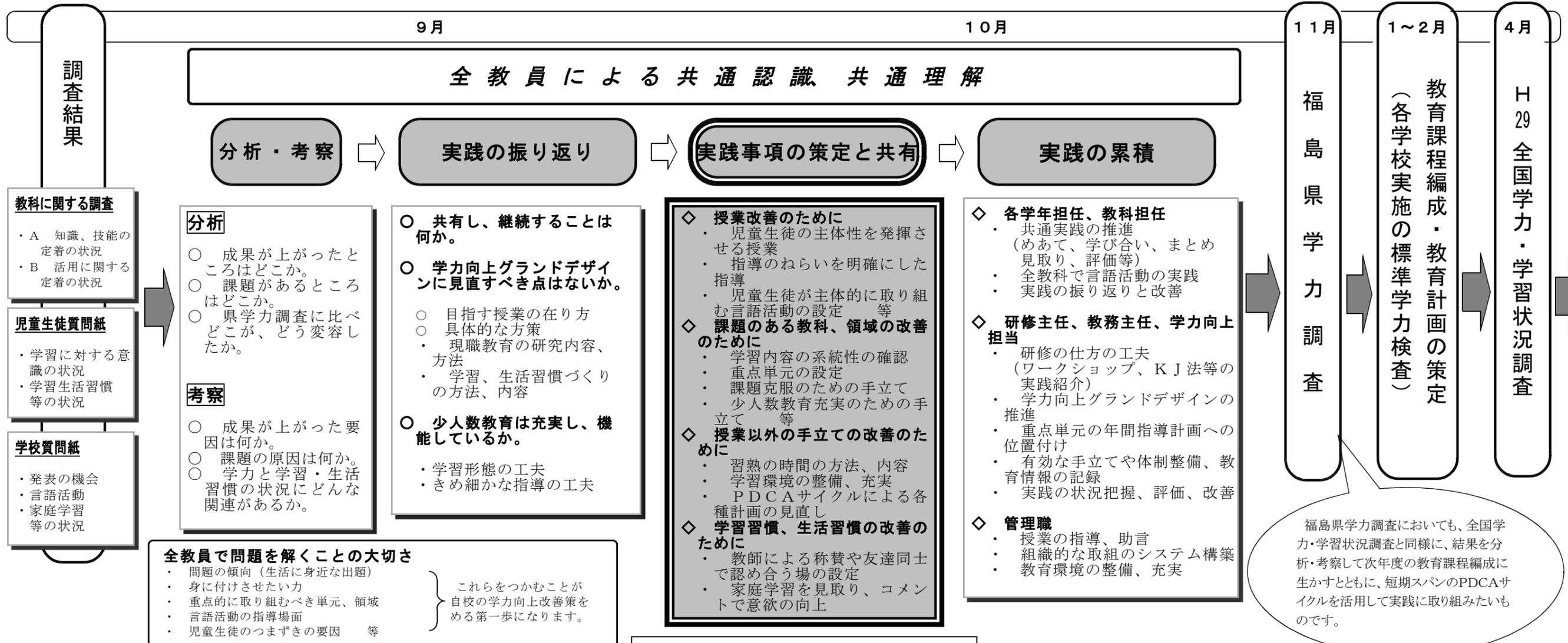


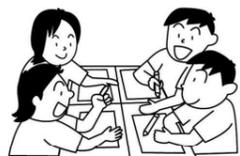
4 全国学力・学習状況調査の結果を受けて



共通実践の例

家庭学習の工夫・改善

家庭学習の手引き等を利用して計画的な学習を奨励し、提出されたノート等へ必ず目を通し、一人一人の状況を見取り、コメントを書くことで学習意欲の向上を図るようにする。



適用・習熟の時間の充実

教科や学習内容に応じることにより、終末段階等で適用問題に取り組み、本時の学習内容の定着状況を評価し、補充指導と次時の授業構想に生かす。

定着確認シートの活用

定着確認シートに取り組みやすい状況を作り、計画的に実施することにより、学力の状況を確認するとともに、指導内容や方法を振り返る機会とする。

各教科における言語活動の充実

次の2点を特に意識して言語活動を設定する。

- ・ 指導のねらいを明確にする。
- ・ 児童生徒が主体的に取り組む。

具体的には、次の点に配慮する。

- 1 めあてを「問い」の形にする。
- 2 多くの児童生徒に発言させる機会を設ける。
 - ① 思考を促す発問
 - ② 発言をつなぐ働きかけ
 - ③ 思考する時間の確保
- 3 児童生徒同士の交流の場を設ける。(ねらいを明確にする。)

学習形態の工夫

つまずきやすい単位には、T・T指導や習熟度別学習を取り入れるなどして、個に応じた指導を充実させる。
ペア、グループでの話し合い等の学び合い活動は、そのねらいを明確にし、児童生徒の思考を深めるようにする。

年間指導計画の完全実施と改善

年間指導計画を計画どおり完全に実施する。
また、各学校の課題に基づき、学習内容の系統性を確認し、重点単位として年間指導計画に位置付ける。

授業改善については、県北教育事務所で発行した「確かな学力の向上のために」を参考にしてください。

